

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2791600436		
法人名	ベタープレイス株式会社		
事業所名	グループホーム めいの家		
所在地	大阪府吹田市五月が丘北6-12		
自己評価作成日	平成 31年 1月 27日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kanistrue&amp;jiyosv0Cd=2791600436-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kanistrue&amp;jiyosv0Cd=2791600436-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 2月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

めいの家スタッフは認知症サポーター養成講座の講師(メイト)が5人おります。内2人はフォローアップメイトの講師ができる者です。地域の方々や小学校・中学校・PTA・警察・企業など認知症の理解を深めるため講座に力を入れています。近くにエキスポシティがオープンし、利用者と共に出掛けることが増えました。観覧車に乗ったり、ニフレで動物と触れ合ったり、お買い物をしたり、個別の対応で楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域と共に」の思いを込めて、地名の五月が丘から命名した「めいの家」は、地域にとってなくてはならない存在の事業所となっているグループホームです。13年管理者として運営に関わってきた代表が、利用者・家族・職員への熱い思いから平成30年2月に自分で事業を経営することになりました。新しい会社の名前「ベタープレイス」には、「もっといいことあったら・もっといいところに」の思いが込められ、代表の揺るぎない考えは職員にも浸透しています。理念も「Be Smile・Be Happy」と掲げ、「行きたい時にいきたい所へ、食べたい時に食べたいものを食べる。夢に愛される場所、夢叶う場所」の方針で、代表・管理者以下職員一丸となり実践しています。家族や地域住民の協力のもと、夏祭り、餅つき、クリスマスのイルミネーション等、年間を通してさまざまなイベントを企画し、地域住民や子ども達に喜んでもらっています。家族会があり、大掃除の手伝い、行事等の参加、職員とのコミュニケーション等、活発な活動がホームへの大きな応援団になっています。「利用者の笑顔が、仕事に向かう原動力」と言う職員が支える利用者の暮らしにより、利用者・職員の笑い声が響くグループホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b>                      地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「地域に根指し、心豊かに暮らしていこう！」を理念としています。「ここに来てよかった」「あなたに会えてよかった」「生きていてよかった」いろんな「よかった」を応援し、地域の自治会、子供たちの協力を得て、夢叶う明日に向けて取り組んでいます。</p>	<p>新しい会社の名前「ベタープレイス」は、マイケルジャクソンの「ヒールザワールド」の曲からつけました。この曲が伝えている「すべての人たちのために、いい場所に」の思いが込められています。代表の揺るぎない姿勢と考えは、現場に浸透しています。理念も「Be Smile・Be Happy」と掲げ、「地域に根ざし、心豊かに暮らしていこう。行きたい時に行きたい所へ、食べたい時に食べたいものを食べる。夢に愛される場所、夢叶う場所」の方針で、代表・管理者以下職員一丸となり実践しています。理念は、フロア内に掲示され、ホームのパンフレットに分かりやすく記載されています。利用者の表情、家族会の活動、職員の顔、行事での参加者住民・子ども達の笑顔から、理念の実践が伺えます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p><b>○事業所と地域とのつきあい</b>                      利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>五月が丘の夏祭り出店にも積極的に参加しています。そしてめいの家夏祭りにも沢山の子供達が参加してくれ、一緒に盆踊りやスイカ割り、花火を楽しみました。</p> <p>春祭りは「世界の名作劇場」金太郎からピーターパン・白雪姫と全員で仮装し、流行の「恋ダンス」、子供達みんなと「エビカニミクス」を一緒に踊りました。自治会はあんず公園でゲームをしてくれ、めいの家と公園2か所で楽しみました。</p> <p>そして、秋には職員の結婚式をしました！！</p> <p>冬になりイルミネーションの点灯式には、沢山の地域の方が参加してくれ、いつもよりパワーアップしたイルミネーションを「3・2・1！点灯ー！！」と利用者・家族さん・地域の皆さんと行いました。</p> <p>2018年最後は、毎年28日のおもちつき。地域の行事があったにもかかわらず、いつも来てくれる顔見知りの子供達やお父さん・お母さんも参加してくださいました。寒い中来ていただき、おもちをついて一緒に食べました。1年を通して沢山交流することができました。</p>	<p>「地域と共に」の思いを込めて、地名の五月が丘から命名した「めいの家」は、地域にとってなくてはならない存在の事業所となっています。自治会に加入し、地域の行事では連携を取り交流していません。春祭りでは、公園でゲーム、ホームの駐車場では模擬店をはじめ職員の工夫を凝らした出し物で地域住民や子ども達に楽しんでもらいました。ホーム駐車場で開催した夏祭りは、会場に入りきらないくらいの大勢の地域住民の参加がありました。クリスマスのイルミネーションも地域の楽しみになり、住民から「いつくの」と尋ねられるほどになっています。</p> <p>年間を通しての様々なイベントのお知らせは、地域のコンビニや個人の家貼る協力も得ています。子ども達にも認知症について理解してもらえる様に紙芝居を作成した認知症サポーター養成講座は、小学校・中学校・警察・企業等各方面から開催の要望が多く、受講者に分かりやすいと喜ばれています。今後、介護離職をなくすための取り組みのひとつとして、企業からの要請があり、グループホームでの利用者の暮らしなどを紹介する予定も決まっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>中学校の職業体験・福祉体験、新人教員初任者研修・夏のボランティアなどを積極的に受け入れ、「認知症とは？」・「GHとは？」・「車いすにのってみよう！」などさまざまな実習に取り組んでいます。中学生の職業体験・福祉体験に加え、西山田小学校や竹見台中学校などたくさんの学校の授業で福祉について、認知症についてのお話をさせて頂きました。認知症について、わかりやすく紙芝居をしたり、劇をしたり、車椅子の体験をして、たくさんの感想のお手紙を頂きました。感想をいただいた時に書かれていた質問に対しては、1人1人にお返事させて頂いています。授業を聞いて自分のおばあちゃんに対して想いがかわったなど嬉しいお手紙を頂きました。今年で5回目になる「わたしにできることプロジェクト」が3月に行われます。介護・認知症について、少しでも多くの人達に来ていただける様、楽しいプロジェクトになる様、日々話し合いをしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族会役員・自治会役員・Dr.・Ns.・地域包括支援センター職員・社会福祉協議会職員・GH職員が集まり、2ヶ月に一回開催しています。施設の行事を軸に地域・医療等さまざまな視点から話し合っています。</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回、年6回開催しています。家族会役員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、グループホーム主治医、訪問看護師、ホーム職員等がメンバーとなり、話し合っています。運営推進会議開催日は必ず全家族に案内状を出して参加を促しています。会議では、ホームの活動状況や取り組み等を報告し、参加者から意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしています。次の行事やチラシのこと等を一緒に考えてもらえる会議となっています。参加者からは意見、要望も活発に出され、終わった後の雑談が延々と続く雰囲気の良い会合です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>〇市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に1回のグループホーム連絡会への参加、市主催の介護フェアへの参加等を行っています。又、市担当者、市内グループホーム職員との情報交換を行い質の向上に取り組んでいます。近隣のグループホーム等には、夏祭り・お餅つきなどの行事のお誘いなど催しの時にお手紙をだしたりして、お誘いしたりもします。</p> <p>上記のグループホーム連絡会にて立ち上げた「わたしにできることプロジェクト」では、たくさんの施設の職員が集まり、チームを作りプロジェクトを進めています。</p> <p>1年前から大阪大学医学部の学生さんもメンバーに入っています。一緒に脳の話の紙しばいを作ったり幅が広がりました。</p>	<p>市担当者とは都度連絡をとれる関係を築いています。地域包括支援センター職員からは運営推進会議で情報提供や助言を得ています。市主催の行事に参加したり市内グループホーム連絡会にも参加しています。連絡会には市職員も出席し、連携を築いています。地域包括支援センターより、自宅での生活が難しくなってきた方の入居依頼があり、受け入れに際して地域包括支援センター職員、ホーム職員と協議を重ねる機会があり、市との連携がより密になりました。管理者は、グループホーム連絡会で立ち上げた「わたしにできることプロジェクト」の代表を務めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に一度内部研修を行い、身体拘束の意味を理解し、禁止の対象となる行為を考え、話し合う機会を持っています。面会時に家族とも話し合いの機会を持っています。</p>	<p>「身体拘束ゼロの実現をめざします」とマニュアルを作成し、グループワークを取り入れた研修会を行って、身体拘束をしないケアを実践しています。研修実施後はアンケートをとり、振り返りを行っています。玄関の中からはいつでも開錠が可能です。利用者はエレベーターで2・3階へ自由に移動しています。階段も自由です。利用者の外出したい仕草に気付くと、いつでも職員は一緒に出掛けます。利用者が一人で外に出ることがあっても、近所の住民とは顔見知りです。ホームまで送って来てもらえる関係にあります。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待事例から考える外部研修に参加し、それをまた、内部研修として全職員に伝えてもらいました。法制度を理解し、全員で意識を持って取り組んでいます。そして、一人一人どう考えているのかグループワークを行いました。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員に制度を理解してもらえよう話し合いをしています。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>                      契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を見てください説明しています。理解を得られるまで細部に渡り説明し、幅広い情報の提供を心がけています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会ができたおかげで、今まで以上に家族の協力が大きくなりました。家族会役員の呼びかけで、たくさんの家族が行事に参加してくださり、大掃除をして下さったり、旅行の時には、一緒に温泉につきり、宴会を一緒に楽しみ、一緒に寝ます。その中で話をする機会も多くあります。面会時には声をかけ、電話・メール等でも意見・苦情を聞き取っています。職員にはミーティングなどで情報提供し、問題発生の際は、早期解決を今までと変わらず続けています。</p>	<p>家族会があり、大掃除の手伝い、行事や忘年会の参加、職員とのコミュニケーション等、活発な活動がホームへの大きな応援団になっています。一泊旅行や行事への家族の参加で、利用者、家族、職員の垣根のない関係ができ「本音で語り合う関係」となっています。家族の面会時には、自分の家族だけでなく、周りの利用者のことにも気遣う家族です。家族会より、「他事業所の家族会の活動について知りたい」との要望があり、他事業所との交流会も実施しました。家族からの貴重な意見のひとつに、「みんなで歌を歌う時、歌の本を見ながらだったら下ばかり見ている」との声があり、天井から歌詞を吊るし、顔をあげて歌ってもらえるようになりました。家族からの「親がここに来て元気になりました」との声に、職員は励まされています。</p>	<p>会社設立一周年を迎えたことを記念し、家族の意見・要望を更に有効にするため、ホームとして確認したいテーマに絞り、アンケートを実施されてはいかがでしょうか。その際、ホームの取り組み状況での良いところ、評価できる点も同時に確認されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議・各フロア会義で意見を聞くようにしています。又、管理者は個別に職員と話し合いも行っています。	毎月のグループホーム会議や全体会議で意見を出し合い、サービス向上に向けて話合っています。日常的にも意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。職員育成の特徴としては、ケアプラン風様式に「スタッフケアプラン」を作成しています。職員は自己評価し、業務上の個人の目標や悩みなども記入し、管理者と面接をしています。また、他職員から「良いところ・尊敬するところ・好きなどころ」「苦手なところ・直してほしいところ・悪いところ」の評価を記入してもらい、自分自身を再確認する機会ともなっています。年間の多くの行事は、職員が主体的に取り組み、利用者と一緒に楽しみ、「利用者の笑顔」が職員の働く原動力ともなっています。家族会の支持や応援も職員の士気を高め、職員の定着に繋がっています。1年前に代表が自分で事業を経営しようと思ったのは、職員の処遇を向上させたいとの思いもありました。『職員が結婚する時、「共働きで頼む」と言っのポーズではなく、「仕事しなくてもいいよ」と言っってポーズできる処遇を』と願っって運営しています。平成30年11月に、ホームで利用者にも参列してもらっって職員の結婚式を行いました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>今後、職員個々の努力や実績等を把握、査定することが出来るよう基準作りをしました。各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めていきます。今年も全職員のケアプランを作成し話し合いました。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修を実施しています。本年度は、認知症ケア・人権について、感染症・食中毒について、虐待、感染予防と発生時の対応について等です。又、職員より希望のあった研修内容も取り入れています。他に新人職員に対しては新人研修を実施しています。講師となるのは施設長だけでなく、職員も講師を務めます。そのために職員一人一人が勉強しています。全職員に研修ファイルを配布、外部研修を受講した場合には記録を作成し、研修報告書を回覧しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市が主催するグループホーム連絡会・ケース検討会議・地域連絡会議・担当者会議等に参加し、情報交換を行っています。GH 連絡会では、他施設と合同で認知症サポーター養成講座を開催し、介護職員の交流会も企画しました。また、3月には「わたしにできることプロジェクト」と銘打ち、吹田市の介護職員による事例発表会を行います。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面接時より担当になるCWが細かく、本人の希望・夢・生活歴を聞き取り、入所から1ヶ月を目途に、本人・家族・職員と担当者会議を行い、ご家族と共に本人の安心を確保するように努めています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の思い・考え方・希望問題点等を聞き取り、日々の生活を共に考えるようにして、信頼関係を築く努力をしています。何でも言い合える関係作りを目指しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入念な聞き取りをします。常に必要なことは何か、最優先することは何かを、広い視点で考えるよう努めています。その上で、日々の変化等をスタッフ全員で共有し、一日も早く落ち着いた生活ができるよう見守っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自慢できること・得意なことは、皆に教えてもらい、苦手なことは、皆でサポートする関係を大切にします。「やってみよう」と思う気持ちで取り組めるよう、楽しめるよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会発足で行事に参加して下さる家族の方が増えています。偶然ですが、利用者の家族さんが、家族会会長の同級生だったり、賛助会員の知り合いだったり、今まで以上に家族会の繋がりが強くなり、相談し合える関係ができ、楽しく話し合いができています。昨年度「めいの家後援会」が設立されました。家族会OB・医療・地域の方々と共に、めいの家を支えてくださる団体とのことです。面会時などに不安や質問などを聞き取り、信頼関係を築いていく努力を続けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>部屋には、自宅で使っておられたタンスや布団、大切にしておられた物や写真を持って来てもらうようにしています。面会時間は特に設けず、気軽に立ち寄ってもらえるようにしています。</p>	<p>馴染みの友人・知人が訪問しています。1階のデイサービスセンターに通ってこられる顔なじみの方に会えるのを楽しみにしている利用者もいます。利用者一人ひとりの馴染みの人や場所の情報は、入居後ホームでの生活に慣れてから、本人や家族に聞き取り、ライフヒストリー様式に記入し、職員間で共有しています。「家族と自宅に行くことで、利用者が自宅を恋しがり不穏になるのでは」と外出を心配する家族の声もありますが、職員が「大丈夫です。あとは任せてください」と伝えることで、家族も安心して利用者と外出することができます。入居後の利用者同士の新しい関係は、お互いを思いやるほのぼのとした雰囲気です。また、毎日の外出や、地域やホームで行う行事への参加を通し、隣近所とも新しい馴染みの関係ができています。馴染みの子ども達の成長ぶりを見ることも、利用者の楽しみとなっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>若年性認知症の方の入所があり、会話・カラオケなどに年代を感じることも多くあります。いつも利用者同士の仲に入っているわけではなく、個々の関係を大切に見守っています。又、コミュニケーションが行き違わないよう援助することを心がけています。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>「一周忌を終えて落ち着きました。めいの家に何も恩返しが出来ていないことに気がつきました」と毎月ピアノを弾きにきてくださっています。また、近くに寄ったからと、職員の顔を見に来てくれます。お米を持って来てくださる方や、今もOB・OGとして関わってくださっている方が何人もおられます。また、母が好きだった行事だからとお餅つきのお手伝いに来てくださる方や、タオルや毛布・洋服・お皿、家で使わなくなった物置をくださる方など、今も変わらない関係が続いています。本当に忘れずにいてくださってありがたいです。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにある項目を、担当職員がゆっくり聞き取る所から、一人一人の夢や、これからの生活に対する希望を探し、夢叶うよう支援しています。	「地域に根ざし、心豊かに暮らしていこう。行きたい時に行きたい所へ、食べたい時に食べたいものを食べる。夢に愛される場所、夢叶う場所」の方針を掲げ、利用者一人ひとりの思いを大切に支援しています。利用者調査票、ライフヒストリー、ホームでの生活が一式になった利用者情報から、一人ひとりの思いや希望を共有できるようになっています。「ホームでの生活」では、希望や好きな活動等はもちろん、嫌な話題・嫌な活動等も把握し、利用者の尊厳に配慮しています。日常の関わりの中での気づきや発見は、申し送りノートに記録し、共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにある項目を担当職員がゆっくり聞き取り、見えてきた生活歴・性格などから、家族と共に考える時間を持つようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員、日々の過ごし方はさまざまなので、一人一人に対応できるよう心がけています。又、日々訴えもさまざまなので個別に聞き入れる余裕を持ち対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本筋は「本人の夢を叶えること」。家族の要望も含め、今一番大切なこと、今一番必要なこと、楽しく暮らすための課題を常に探しています。</p>	<p>「本人の夢を叶える」を基本視点として介護計画を作成しています。日常的に支援していること、一人ひとりの生活状況や表情が伝わる介護計画です。計画は、3か月毎に見直し、フロア会議で毎月カンファレンスを実施しています。専門用語は使わない、利用者・家族に分かりやすい介護計画です。会社名の「ベタープレイス」に込められた「よりよい毎日のために何をすればいいか」が介護計画にも盛り込まれています。計画作成担当者は、「利用者・家族・職員の意見をよく聞くこと」を心がけて介護計画作成にあたっています。「この介護計画ではなく、こういう風にして」「この介護計画では印が押せない」とまで家族から言ってもらえることを願い、利用者のより豊かな暮らしの実現のため、家族と一緒に考えていくことを大切にしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん、連絡ノートを活用しています。又、問題がある場合は、早急に集合し、全員で話し合うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナル期の家族の宿泊、行事への参加、近隣参加、行きたい所へ、行きたい時に行きたいと言えるように、どんな訴えでも伝えることのできる、わがまま言える居場所作りをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーマーケット・公園・喫茶店・コンビニなどに行きます。外出することで、挨拶を交わすなどをして、地域の方との交流も大切にしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各階月に2回、往診ドクターの診察があります。又、精神科・皮膚科・眼科等は地域のかかりつけ医を作っています。	入居前からのかかりつけ医へは、希望があれば受診しています。初めての受診の際は、ホームでの生活や状態を伝えられるように職員がついていきます。ホームの協力医の往診は月2回あります。訪問看護師による健康管理も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p><b>○看護職との協働</b>                      介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医師と訪問看護師との連携と、「いつもと違う」という介護士の状態変化の気づきを大切に、少しでも早く適切な診察が受けられるように、一丸となって努力しています。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b>                      利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療連携医の最終判断により、入院を決定することが多いですが、入院後は家族と職員が常に連絡を取り合い、入院先の主治医の意見・経過等も一緒に聞き、一日も早い帰所に向けて、積極的に支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に関しては、Drより指示のあった段階で家族と話し合いを重ね、Dr・Ns・CW・家族(本人)同席の元、方針を決定しています。そして、職員全員で看取りを考え、進めます。又、延命するかどうか、看取りについての希望確認書を入所時に家族に実施しています。希望確認書の意向の変更は随時可能で、話し合いの際にも意向の確認をし、ケアに反映しています。</p>	<p>終末期に関しては、医師の指示があった段階で家族と話し合いを重ね、方針を決定しています。看取った家族からの感謝の言葉や、看取りの経験を通じての貴重な学びから、職員の意識も変わり、「ここで看取るのが当たり前」と現場から声があがるようになってきました。市の介護保険事業者連絡会では、看取り実践の発表を家族と共にしました。ホームでは、利用者の最期をどのように支えるかも職員が工夫し、最期の最期までその人らしく過ごすことができるように取り組んでいます。桜の話をよくしていた利用者の居室の壁を桜で満開にしたり、琵琶湖の思い出を話していた利用者の居室はシャワーカーテンで琵琶湖を演出しました。亡くなった利用者の家族から、本人のインシヤルと職員全員の名前が入ったTシャツを作ってもらいました。職員はそのTシャツを着て、看取りの経験から学んだ貴重なことを、日常のケアに活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b>                      利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内部研修として、事故防止につながる勉強会を実施しています。うつ病について、緊急時・急変時の対応、入居されている利用者に起こりうるケースを想定しどう対応するか、グループワークを行うなどの研修を行いました。利用者の急変対応や、その時に必要だと思われる内容を委員で話し合い、研修内容に反映させています。</p>		
35	13	<p><b>○災害対策</b>                      火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年は、6月・11月に消防訓練を実施しました。消化・避難・通報の訓練に加え、地震発生時にはどんな事が起き、どう対応するかも訓練しています。</p>	<p>災害マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行い、消防署の指導も受けています。災害マニュアルは、火災・地震・台風・大雨、それぞれの対応について記載し、読んだ職員は印を押し、周知徹底に努めています。避難訓練のチラシを地域にも配り、地域住民にも参加してもらっています。子ども達に参加できるように土曜日に実施したこともあります。非常災害時の水や食料も準備しています。賞味期限の管理などは、担当職員が定期的に点検しています。平成30年9月の台風時には、断水になりましたが、備蓄の食料で食事にはさほど不自由さを感じることなくすみました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いを実現すべく、情報収集し、常に何を願い、求めているかを知るための努力をしています。	人権、守秘義務、接遇等について、職員が講師となり研修を行っています。職員が講師となることで、日常生活の場面において、さまざまな気づきがあり、自己を見直す機会となっています。研修後、「職員のいいとこメッセージ」で、各職員のいいところを書くワークも行っています。職員のいいところを出し合うワークは、利用者を見る優しい目に繋がっています。家族や地域との交流に積極的に取り組んでおり、外部の目が入る機会が多く、風通しのよい職場環境は、職員の質の向上に繋がっています。管理者は「自分がされて嫌なことはしない」と職員に伝えていきます。着替え・排泄・入浴の同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	忘れてしまうことが多くなってくると、なかなか以前していたことや、したいことが言葉になって表れません。雑談などしながら、思っていることを引き出すことも大切ですが、今までの生活の中で、習慣としていたことも大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、起きておられる方からで、特に時間は決めていません。昼食は12時に席につきますが、それも決まりはありません。夕食も、お腹がすいたら…という感じです。入浴は入りたい時間に、日にも特には決めていません。ペースになる個々の生活を把握し、それぞれの日常と関わりをゆっくりと過ごしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	皆同じ髪型ではなく、やりたい髪型にしてもらえる様、希望を叶えてくれる美容師さんに変えました。その日の気分で洋服を選んでもらうことで、本人の好きな物を理解し、一緒におしゃれを楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備をしたり、味見をしてもらったりしています。食器の色など工夫し、目の悪い利用者が食べやすい様にしています。他にも、手で持って食べられるよう全て小鉢にしたり工夫しています。職員も一緒に食べ、食事の感想や好みを話しています。片づけも一緒に行い、一緒に食器を戻します。	併設するデイサービスに厨房があり、厨房で出来上がったものや下ごしらえしたものが各ユニットに届き、味付けや盛り付けを利用者と一緒に行っています。ご飯と汁物はユニットで作ります。また、朝食は各ユニットで準備しています。利用者の得意分野に応じ、準備や後片付けをしています。行事食の際は、デイサービスの利用者も一緒に食べます。寿司職人だった厨房職員の食事が美味しいのも、ホームの自慢のひとつです。毎月、目の前で握ってくれる握りずしの日にも、あちこちから「美味しい」と声が聞こえてきます。利用者の食事に対し、前向きな努力を惜しまないベテランの厨房職員の姿勢は、利用者だけでなく職員にもいい影響を与えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表は日々つけています。食意が低下した人、体調の悪い人は、食事量も記録しています。水分は、好みや水分制限があるので、その人それぞれに応じた飲み物を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日、訪問歯科医・歯科衛生士に治療・口腔内を清潔にしてもらいます。歯医者でできることは、すべて可能となったので、実際に治療もしてもらっています。歯科衛生士にアドバイスをもらい、日々の口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿漏れのある方はパンツの中にパットを使用、尿意のない方・定かではない方は適時トイレへの誘導を行っています。気持ちよく日々を暮らすため、排泄の工夫は一丸となってやっています。	排泄に関しては利用者の状態に応じた支援をしています。職員は排泄表に利用者の排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。自立ないし自立に近い利用者には見守りを、介助が必要な利用者にはトイレ誘導を、自分で尿意を伝えられない利用者には適時さりげなくトイレでの排泄を促しています。尿取りパッドを使用している利用者もいますが、その人に適したものを相談して使用してもらい、利用者が気持ちよく過ごせるように配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まず、食物繊維の多い食事、コーン茶・ルイボスティー・ごぼう茶・牛乳・バナナ・ヨーグルト等を楽しんで食べてもらうようにしています。適度な運動の促し、十分な水分摂取を意識して行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日は決まっていません。週に2～3回はっています。意思決定できない方は促しますが、決定できる方においては入りたい時対応です。</p>	<p>利用者は週2～3回は入浴しています。利用者の入りたい時に入浴できる体制とし、入浴表に記録を残しています。それにより、意思決定が難しい人、入浴を好まない人には時間帯や、言葉のかけ方を工夫するなどして、入浴を促しています。季節にはゆず湯を楽しみ、利用者好みの入浴剤を使うこともあります。本人専用のシャンプー・リンスを使う利用者もいます。一人ひとりお湯を入れ替えています。浴室の壁に2階では富士山の絵を、3階では水族館の魚たちのシールを貼っています。職員の見守りや介助により気持ちよく入浴できる環境です。</p>	
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>意思決定できない方においては、適宜休息時間をもうけています。夜は2時間を上限とし、その方の体調や状況に合わせた頻度で巡回し、眠れない夜が続けば、ホットミルクなど一緒に飲んだり、テレビを観て過ごしたり、話をしたりして過ごします。意思決定できる方は促しで、後は本人の生活習慣に合わせています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p><b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>誤薬がどんなに怖いことかをホームDr.から話してもらい、利用者の薬に興味を持てるようピルブックも各階に置き、処方箋も必ずしっかり眼を通し、薬に変更があった時には個別記録に記載し、周知徹底しています。服薬マニュアルを全職員参加で作成し、誤薬防止に努めています。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>得意なことをしてもらい、役割があります。洗濯物をたたんだり、エプロンのボタンつけや掃除。洗濯物を乾燥機まで持っていったりしています。リビングでお笑いのDVDをみんなで見たり、氷川きよしの好きな方は部屋でライブの様に盛り上がったりしています。その他にも、朝食の買い物をしに近くのスーパーまで歩いて買いに行ったり、将棋をしたり、オセロをしたり、体操のDVDなど、その日によって違いますが、皆で何をするか話し、楽しみながら行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画が必要な場合には入念な会議をしますが、日々、今日は何をしよう、どこへ行こうと考え、実施することが生活と考えますので、特別なものではありません。ただ、家族の協力は不可欠です。外出・面会状況の記録は、業務日誌に記載するようにしています。	利用者の希望で近くの商店街へ買い物に、ちょっと散歩に、と日ごろからよく外出をしています。車で5分くらいの大型複合施設にはよく出かけます。いろいろな店舗、水族館などもあり、買い物はもちろん、様々な刺激を受けることができます。家族との外出は自由です。花見その他計画的な外出の際には綿密な計画を立てて実施します。全員参加の一泊旅行には家族の参加も得ています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理し、領収書で月一度家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙はケアマネージャーが郵送の時にお手紙と一緒にケアプランを送らせて頂いています。職員が家族あてに電話をかけた時には本人にもかかわっています。家族から贈り物が届いたとき、記念日、体調不良時、体調が良くなった時、外出予定が決まった時、買い物をする時、家族に会いたい、話したいと訴えがあった時などです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが使いやすいように配慮する努力をしています。たとえば、椅子を利用者の座りやすいものに変えたり、座りやすい高さにソファを変えたり、クッションを工夫したり、入浴時の椅子も個々に使いやすいものになっています。利用者と相談しながら窓の開閉をし、TVやCD・DVDをつけるようにしています	独身寮を改修したグループホームで、建物の周りは、閑静な住宅街です。3階建てのホームは、1階がデイサービス、2階・3階がグループホームの居室で、エレベーターで自由に行き来できます。廊下は広く、浴室、洗面所などの共用空間も使いやすく工夫しています。様々な意匠をこらした壁紙やシールを利用して温かな落ち着いた雰囲気になっています。台所のガスコンロや流し台など、家庭と同じ備え付けで、家庭的な雰囲気づくりを心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで一人になることがあるとすれば、皆がご自分の部屋に帰ってしまった時だけです。CWと2人で話したい、利用者同士内緒で話をしたい、一人になりたい時は、フロアの事務所か、それぞれのお部屋を使っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで自宅で使っておられたタンス・ベッドを持って来られています。それぞれの今のまでの生活を考えながら対応しています。歌謡曲が好きな方は、部屋に流し、落ち着ける雰囲気作りをしています。きれいに片づいているだけが良いと思わないので、いろいろな所に支えがある、物のいっぱいある部屋が落ち着く方もいます。それぞれの方の今のまでの生活を一緒に考えています。</p>	<p>各居室には大きな窓があり、外には閑静な住宅街が見えます。ドアには利用者の目線に配慮し、手作りの表札をかけています。利用者はベッド、たんす、机と椅子など、自宅で使用していたなじみの家具を持ち込んで、家族や職員と相談しながら使いやすく配置しています。時計、テレビなども見やすい場所に置き、写真、フラワーアレンジメントの作品などを飾って楽しんでいる人もあります。それぞれ個性的な部屋になっています。新しく入居した人は壁紙のリフォームに際し、自分でお気に入りの柄を選ぶことができ、好評です。</p>	
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>部屋の出入口は少しスロープになっているし、浴室は段の大きな階段になっているので、原則バリアフリーではありません。その度声をかけながら生活しています。また、スイッチカバーを変更し、より安全に生活できるよう工夫しています。特に個別の道具の工夫はありませんが、「ワーカーがそばにいること」「ワーカーが声をかけること」が安全に繋がればと思います。</p>		